

## 主 文

本件各上告を棄却する。

当審における訴訟費用（被告人A、同B、同Cの国選弁護人田中康三並びに被告人Dの国選弁護人都富佃にそれぞれ支給した国選弁護料）は、被告人A、同B、同C及び同Dの各負担とする。

## 理 由

被告人A、同Bの各上告趣意、被告人Eの弁護人大原利文の上告趣意、同Fの弁護人藤井稔の上告趣意、同Gの弁護人神川貫一の上告趣意、被告人A、同B、同Cの弁護人田中康三の上告趣意及び被告人Dの弁護人都富佃の上告趣意は、いずれも刑訴四〇五条の上告理由に当たらない。（弁護人神川貫一の上告趣意中には、違憲を主張する部分があるけれども、原審で主張せず、その判断を経ないもので上告適法の理由に当たらない。また弁護人都富佃の上告趣意中には、被告人の唯一の自白を主張する部分があるけれども、右自白にはその真実性を保障するに足る補強証拠が存するから、右主張は前提を欠くものである。）また記録を調べても同四一条を適用すべきものとは認められない。

よつて同四一四条、三八六条一項三号、一八一条により裁判官全員一致の意見で主文のとおり決定する。

昭和二九年二月一九日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	霜	山	精	一
裁判官	栗	山		茂
裁判官	小	谷	勝	重
裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	谷	村	唯	一 郎